



ACC ガーナ 2023 ACOUN 報告

国連のアングリカン・コミュニオン事務局（ACOUN）は、世界の舞台でアングリカン・コミュニオンの声、経験および専門知識を代表し、高めている。ACOUN は、特に国連の事務局、各機関および加盟国との関わり合いに焦点を当てた布教活動である。

私たちの国連との関わり合いは、アングリカンの宣教の5つの指標の文脈における信徒としての実践である。私たちは、人間のニーズに対応し、不当な構造に挑み、平和と和解を追求し、創造を保護するために、すべての生活の領域に福音を取り入れるように求められている。ACOUN は、この布教上の求めに応じて、コミュニオンの各管区からの情報を得、国連政府間レベルでそれをフィードバックし、神の世界と神のすべての子たちを気遣うための国際協力をさらに強化しようとしている。私たちは、アングリカン・キリスト教徒やエピスコパル・キリスト教徒が他の人々、特にエキュメニカルや他の宗教関係者と協力して世界中で提供している解決策に国々を注目させることを目指している。

前回の ACC 会議以降、ACOUN は多くの変化を経てきたが、結果を生み出し続けている。ジャック・パーマー-ホワイト国連常任代表は、世界のアングリカン・コミュニオンのために、また世界のアングリカン・コミュニオンとともにより効果的に提唱するための協調行動を監督するために、2つの別々のチーム（ニューヨークとジュネーブ）を統合した。

2021年、ニューヨークチームのメンバーは他のキャリア機会を求めて移動し、2022年末にはジャック・パーマー-ホワイトも別の場所で新たなポジションを得た。2022年7月、グレン・ラッフル師は、国連に対面で出席できるようジュネーブに移住することを目的として、常任代表の非常勤アシスタントとして加わった。ニコラス・パンデは国連環境計画の本

拠地ナイロビを拠点に、気候と生物多様性の問題に専従したアングリカンチームで週に1日業務している。2023年3月には新常任代表の就任が望まれる。

ACC17以降に完了した作業のハイライトは次のとおりである。

アングリカンの声を上げる

1. 私たちは、国連における宗教の認識を高め、環境問題への取り組みの中で宗教関係者の重要性について、国連の主要文書に初めて文言を盛り込む取り組みを主導してきた。
2. 私たちは、国連環境計画内の宗教組織運営グループや、国連多宗教諮問委員会の継続的メンバーなど、国連組織内でリーダーシップを期待されている。
3. 2019年に私たちは女性の地位委員会(CSW)に8名の女性代表を派遣し、機会とアドボカシーのポイントについて説明した。
4. 2019年に私たちは国連環境総会(UNEA)にも5名の代表を派遣し、何を目標にし、何を話し合うべきかをその開始時に説明した。
5. 我々は、国連環境総会に関連する様々な声明の起草と編集を支援した。これには、主要なアングリカンに関連する文言を世界の市民社会に関する声明に含めること、プラスチック汚染に取り組むことに関する世界的な宗教指導者の声明、およびUNEAの閉会本会議で提出された多宗教声明が含まれる。
6. 私たちは女子差別撤廃委員会(CEDAW)への提言を行った。
7. 私たちは、ジェンダー公正、先住民族の権利、気候変動復元力に関する国連のオンラインイベントに代表を派遣・参加した。
8. 常任代表は、平和構築と和解の問題について国連安全保障理事会にカンタベリー大主教が説明する際の支援を行った。
9. 私たちは気候変動に関するCOPプロセスおよび生物多様性条約に関するCOPサミットについて正式な認定を取得した。
10. アングリカン連合と協力して、私たちはスコットランドでのCOP26とエジプトでのCOP27の両方で、ホスト国の教会からの強力な支援を得て、アングリカンの存在感を高めた。アングリカン・チャーチは長い間、気候変動COPに代表団を派遣してきたが、これらは国連気候変動会議に初めて参加したACC代表団である。我々は、政策の優先順位を計画し、代表団を形づくるためグローバル作業部会を招集した。フィードバックによると、私たちの存在は他の出席者にとって強力で、指導力と影響力があり、意欲的であったことを示唆している。ACOUNとアングリカン連合は、代

表団へのブリーフィング、事務業務、アドボカシー・プロセスの管理を支援した。注目すべき成果として次のようなものが挙げられる。

- a. COP26 での我々の報告は、気候変動復元力と公正な資金調達の概念を切り開いたものであり、COP27 のブリーフィング文書は、4 つの言語で作成され、その明確で簡潔、適切な内容は等しく評価された。
 - b. 私たちの存在力とアドボカシー活動、とりわけアングリカン連合および ACEN との協力によるそれらが、損害賠償基金の合意を達成する上で他の人々と並んで影響力があったと私たちは考える。
 - c. ACC COP26 ワーキンググループを通じて、私たちは COP26 開催前および開催後にウェビナーを実施した。これには、アングリカン・コミュニオン全地域から 200 名以上が参加した。
 - d. COP 代表団は、世界のコミュニオンのリーダーと並んで、若者、女性、そして先住民の代表を含み、気候変動の影響を最も受けている地域も重視したものである。
11. 私たちは、国連政治平和構築局との関係を育み、それによってカンタベリー大主教との間で、アングリカンが調停者として紛争状況でその役割を果たすうえで支援を受けられるよう覚書を締結した。これにより、モザンビークとカメルーンにおいてアングリカン・キリスト教徒と国連の上級職員との間でハイレベルな協力が実現された。
12. 私たちは、アングリカン・コミュニオン環境ネットワークとアングリカン先住民ネットワークが、環境正義に関する世界市民社会の主要な声明に情報を提供し、影響を与えることができるようにした。我々は、環境保護分野におけるアングリカン主導の取り組みについて、国連環境事務局長による認識を促した。
13. ACOUN は、環境正義や気候変動、生物多様性、核兵器、ジェンダー公正に関する主要な国連会議への ACC の参加を支援してきた。2021 年 2 月に開催された UNEP@50 イベントでは、アングリカンの重要スピーカーが講演を行うことができた。
14. 私たちの活動により、ACC は新しい世界保健機関宗教ネットワークに参加することができた。
- a. 私たちはまた、世界保健総会の特別セッションに先立ち、アングリカン連合とともに、世界パンデミック条約についてアングリカンの総意を策定した。

各管区との協力

- 15.国連チームは、各管区が国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）の普遍的・定期的レビューに参加できるように支援するための資料を作成した。
- 16.2022年に私たちは、ブラジルにおける人権の歴史の普遍的・定期的レビューの一環として、ブラジル・エписコパル・アングリカン・チャーチが報告書を提出できるよう、専門知識と技術的支援を提供した。
- 17.2019年に私たちは、HIVと共に生きる人々を支援するために、国連と宗教組織との連携を強化するための国連ワークショップの運営委員会に参加した。私たちの参加により、レフュージ・エジプト（エジプト主教区）が、難民や HIV と共に生きる人々と協力していることを示すことができた。
- 18.ACOUN は、効果的な多国間主義に関する国連事務総長の役割を直接伝え、カンタベリー大主教の事務総長に対する対応を管理し、良好な関係を確保している。
- 19.私たちは、アングリカン先住民ネットワーク、ACO コミュニケーションチーム、および ACOUN との間でビデオを共同制作して公開し、先住民の懸念事項を明らかにした。
- 20.常任代表は、国連の環境団体との連携について、CAPA（アフリカ・アングリカン管区評議会）で話をした。
- 21.私たちは、各種の国連の日にあわせて、多くのソーシャルメディアキャンペーンを実施した（国連 COP26 の 2 週間の期間中の 93,000 のツイート・インプレッション、国連女性の地位委員会の 2 週間の期間中の 12,500 のツイート・インプレッション）。
- 22.Lambeth Conference のプロセスでは、ACOUN は環境と持続可能な開発に関する呼びかけの起草を支援し、関連する問題に関する複数のセミナーを開催し、ACOUN がコミュニオンのさまざまな部分を支援する方法を特定するために、主教やその他の利害関係者と幅広く会った。
- 23.私たちのチームは、Lambeth Conference で主教らに事務・管理・戦略・運営の各サービスを提供し、持続可能な開発目標と世界の再創造に関する主教のためのセミナーを共同で指導した。

2022年7月に加わって以来、グレンは以下のような仕事をしてきた。

- 第 51 回国連人権理事会への ACO の提案として、新型コロナウイルスが若者の権利に与える影響について書いた。

- 2022年9月21日に開催された第51回人権理事会の第17回総会での「項目3に関する一般討論会」において、同じテーマに関する[ビデオ](#)を提出した。
- CSW67向けのポリシーペーパーを書いた。
- 決議50/9（2022年12月9日）に応じて、人権と気候変動に関してOHCHR向けに提案した。

ニコラスは2022年7月以降、次のような成果を上げた。

- エジプトでのCOP27向けに高評価のACCポリシー更新版を書いた。
- COP27の参加者の準備、概要説明、および管理を支援し、そのアドボカシー活動を支援した。
- カナダの生物多様性COP15での進捗をフォローした。

将来に向けて

ACOUNは2023年に入り思いを新たに、新しいスタッフとともに、すでに達成されている成果をより高いレベルに引き上げることを目指している。我々は、ドバイで開催されるCOP28を支援し、オンラインでCSW67に出席し、そしてここジュネーブでは現場でのアドボカシー機能を持てればと考えている。

私たちは、アングリカン・コミュニオンの各管区とさらに関わり、支援や活動を共にできる他の組織や連合とのネットワークを構築し、それによってアングリカンの優先事項に沿ったアドボカシー活動がさらにできるよう支援を強化することを目指している。

世界保健機関に宗教保健ネットワークを設立したことで、私たちはこの新しい環境で話す機会を活用するとともに、人権理事会や難民のためのUNHCR、現行のCOPプロセスを通じて、また現在生じている他の様々な問題について我々のアドボカシーを続けていくものである。

- グレン・ラッフル、2023年1月